

# 1998年4月28日

## 絵本学会 NEWS No.3

発行：絵本学会

発行日：1998年4月28日

編集：絵本学会事務局・広報委員会

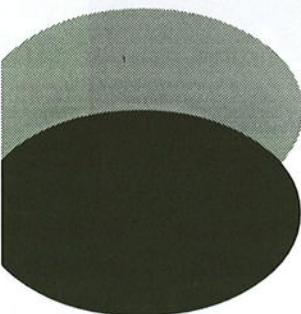
事務局：〒187 東京都小平市小川町1-736

武蔵野美術大学視覚伝達デザイン研究室内

TEL: 0423-42-6091 FAX: 0423-42-5173

<http://vcd.musabi.ac.jp/~ehongaku/homepage.html>

「絵本フォーラム'98」報告  
インフォメーション 絵本関係展覧会・イベント  
事務局からのお知らせ  
研究論文集の論文公募のお知らせ  
第1回絵本学会大会開催のご案内  
理事会・運営委員会 記録  
専門委員会から  
前号の訂正とお詫び



## 絵本学会

### 絵本フォーラム '98 報告 香曾我部秀幸

絵本学会主催による初のイベント『絵本フォーラム'98』が、去る1月15日、東京・世田谷文学館において開催されました。



絵本学会の、設立に至る経緯を、いまさら記す必要もないでしょうが、そもそもは「幅広い視点からの絵本学の構築を！様々な分野で絵本に関わる人々が自由に討論・研究・勉強を楽しむフォーラムを！」という太田大八氏の提唱がきっかけとなったものであったことは、皆さんもご存じの通りです。

その提唱に沿った形で絵本学会が発足し、ハヶ月が経過しましたが、その性格や方向性はまだ明確に定まっていません。というのは、当学会に参加された会員の顔ぶれがきわめて多彩で、当然、絵本との関わり合いも実に多方面にわたっているからです。親として子どもたちと共に絵本を楽しむ立場にいる方は勿論のこと、保育園・幼稚園・学校・図書館・地域センター・文庫等で、子どもたちと接しながら絵本と関わっている方。作家・編集者・翻訳家など、直接絵本創作に携わっている方。書店や出版社など流通関連の方。作家や編集者を目指している方。卒論で絵本を研究中の学生。美術館や文学館の学芸員。大学関係者の中にも、絵本が直接の研究対象ではない異なる領域の研究者も見られますし、さらには自分自身が純粋に読者として絵本を楽しむという立場の色々な職業の方も少なからず参加されています。そこで、これらの多様な立場にある人たち同士が、実際に顔を合わせて自由に絵本を語り合い、絵本の体験や創作や研究の成果を発表し合える場を、まず設定してみようじゃないか、という趣旨で、この『絵本フォーラム』が企画されました。



記念すべき第一回目のテーマは、「絵本は「いま」～現場からの報告」に決まりました。ここ十数年の間、絵本が置かれている状況は、きわめて厳しいと言われ続けています。子どもたちの、絵本を含めた活字離れという深刻な問題が、まず第一に挙げられるでしょう。絵本に対する一般的の認識の低さも重大な問題です。また創り手の側

では、絵本独自の表現に関する意識の曖昧さが常に問題となっていますし、流通業界では、最近とくに目立つようになってきた品切れや絶版のサイクルの早さ、新刊絵本の入手難、絵本専門の出版社の活動停止や書店の経営悪化など、難題が山積みされています。ところがこのような深刻な状況の一方で、図書館や家庭文庫などを拠点に、絵本の読み聞かせの会や手作り絵本セミナーなどの運動が、各地で活発に展開されているという皮肉な現象もあります。さらに近年では美術館や文学館で絵本原画展が盛んに開かれ、また絵本美術館が急増するなど、本来の出版物としての位置から離れたジャンルで絵本が取り上げられる現象も目立ち、従来とは違った視点で絵本を捉えようとする、他領域からの動きもまた見受けられるようになってきています。このように現在、絵本は一体どんな状況に置かれているのか、絵本を取り巻く世界にはどんな問題が生じているのか、様々な現場から現況を報告していただき、それをもとに、今後の学会で論じ合うべき課題を明らかにしようというのが、今回のフォーラムのねらいです。

告知の期間が短かったにもかかわらず、参加申し込み者数は瞬く間に定員（200名）を超えて、それ以上は非会員の申し込みをお断りする状況となりました。ところが当日、関東地方はあいにくの大雪に見舞われ、一時開催中止を検討する状況になりましたが、降りしきる雪の中を百名近くの方が会場に到着され、その方々の熱意に支えられて、定刻を少し遅れてフォーラムは無事始められました。



プログラムは三部構成で、第一部【現場からの報告】では、(1)受容の現場から村中李衣氏（梅光女学院短大助教授）、(2)創作の現場から川端誠氏（絵本作家）、(3)流通の現場から土井章史氏（トムズボックス主宰）、(4)再発見の現場から中川素子氏（文教大学教授）という、異なる現場で絵本と深く関わっておられる四氏によって報告が行われました。

山口県にお住まいの村中氏は、雪のため一時出席が危ぶまれましたが、奇跡的に飛行機が羽田に舞い降り、僅か30分の遅れで駆けつけて来られました。道中のタクシーの車内での運転手との珍エピ



「絵本フォーラム'98」第一部「現場からの報告」風景  
右より村中李衣氏・川端誠氏・土井章史氏・中川素子氏、司会：香曾我部秀幸氏

ソードを交えつつ、小児科医療等の現場で試みてこられた新たな絵本受容の実践活動を報告されました。とくに一対一の「読みあい」を通じて、そこに生じた「場」に絵本の価値を求めるという考え方には新鮮で、「えほんご」や「すきま」という耳新しい認識とともに参加者に強い興味を抱かせました。

『鳥の島』や『森の木』などの独特の造形技法を用いた作品や克明な観察と緻密な分析による独自の絵本解説で知られる川端氏は、作家自身による「開き読み」を提唱されるとともに、創作の基本理念の報告だけにとどまらず、絵本の出版状況について出版部数や印税の額など具体的データを挙げながら、絵本作家が置かれている困難な経済状況を生々しく語られました。

東京吉祥寺でユニークな絵本専門店兼ギャラリーを主宰しつつ、フリー編集者として「イメージの森」シリーズなどの優れた絵本を世に送り出して来られた土井氏は、その立場から絵本をあくまでも「商品」としてとらえながら、「アート・フォーム」としての構造の特質などに言及されました。また「良い絵本」と「売れる絵本」とのずれという古典的な問題や、子どもの成長にとって本当に絵本が不可欠なのかという逆説的な言葉で「娯楽」と「教育的期待」の食い違いを指摘し、絵本に対する熱い思いを語られました。

現代美術の視点からの絵本論『絵本はアート』で、かつて児童文学界にセンセーションを巻き起こした中川氏は、従来の絵本研究が物語りとしての表現論に偏りがちであることを指摘し、研究もまた一つの創造活動であるべきで、単なる作品解説にとどまらない文明批評として、造形美術を含む様々な分野から色々な切り口で論じる必要性を説かれました。さらに絵本に多様な価値観を与えるために、最先端の現代アートをも絵本の世界に組み入れ得ることを、映像を使って興味深く提言されました。

このように各現場からの報告は、多彩で変化に富むものでしたが、とくに絵本を「コミュニケーションの表現」の一環として捉え、絵本は読み手（聞き手）という受容の場があつてこそ初めて表現として完成する、という共通の見解が期せずして四氏から示されたことは、芸術における「創造と鑑賞」という基本命題にも関わる重要な視点として、きわめて興味深く印象づけられました。

昼食休憩後の第二部【分科会】では、四部門に分散して報告者をまじえて参加者同士が気楽に語り合い、第一部での話題がさらに深く掘り下げられました。以下に、各分科会で司会を担当した企画委員の四氏からその内容を報告していただきます。

### ● 第一分科会「受容の現場」報告

第一部での「現場からの報告—受容の現場から」の村中李衣氏の報告を聞き、さらに深めて聞きたいこと、みんなで考えてみたいことについて、村中氏との質問のやりとりをはじめ、活発な意見交換の場となりました。

まずははじめに、村中氏の提唱する“読みあい”が、従来行われている“読み聞かせ”とどこが違うのかについての質問が出されました。それを受けて村中氏は、「読み聞かせとは、これまで一般的に読書活動の中で言われてきたことばで、読み手から聞き手への一定方向の働きかけが前面に出ている。一方、読みあいとは、絵本から受け取ったものを読み手と聞き手が互いに渡し合うコミュニケーションの場をつくろうとするもので、そこで生まれる共感と、それでも互いがひとりずつである、ということがゆっくりと肯定されていくものである。」と語り、村中氏自身が実践してきた中で自然に生まれてきたことばであったことを紹介してくれました。

また、どの絵本でも読みあいが可能なのかというとそうではなく、絵本語の聞こえる本があるという村中氏が使う“えほんご”ということばの意味についても質問が出され、それについてわかりやすく説明いただきました。

「絵本の読みあいを続けていて、“絵本の力・場の力”に思いいたった。絵本の力とは、絵本の中だけにとどまらないし、作られた本の中だけで完結しない。人と人がものがたりを介して出会い直す場の力と絡みあっている。絵本の力の中には、描かれている“絵のことば”“文のことば”だけでなく、読みあいのいろんな要素が絡みあって、ある時は身体感覚を呼び覚まし、ある時は独特なメロディが流れてくるような、表現の奥に潜む“えほんご”を生み出す可能性があるということ。えほんごが聞こえる本と聞こえない本があって、たとえば五味太郎の絵本は、読みあいに使うことが少ない。」

そのことばに続けて、五味太郎の絵本の中でも、村中氏が実際読みあいに使っている『だれかがいます』(五味太郎作・福音館書店)を読みあいました。さらに『きゅうりさんあぶないよ』(スズキコージ作・福音館書店)も読み、参加者とともに絵本の読みあいの場を共有することができました。その際に「えほんごが聞こえる本には、すきまがある」との村中氏の発言があり、そのすきまとは何を意味するのかについて、参加者からも「想像力の余地では?」「すきまはほこりびではないだろう」などの意見が出され、さらにその先を考えたいところで残念ながら時間となりました。

“読みあい”“えほんご”と村中氏の言う新しいキーワードが、絵本

に关心のある参加者を触発するものであり、手応えのある実り多い分科会であったことを報告します。(岩崎真理子)

### ● 第二分科会「創作の現場」報告

第一部の川端氏の報告から、「創作」する絵本作家には二つの現場があることがわかった。本を創作する作家としての創造の現場と、非常に現実的な絵本の流通の現場である。創っていかに読者に手渡すか。川端氏においては、この両方の現場が同等の重さを持つ。それは、絵本の創作という営みは、絵本が読者の手に渡り、開かれて読まれる行為を経て初めて完了するという、川端氏の考えに基づいている。分科会では質問もあり、この二つの現場についてのさらに詳しい話を聞けた。創作の営みについては、レオ・レオニーの『フレデリック』を見て19歳の時、絵本作家を志したこと、絵の人間であることは、5歳の時に百人一首を絵で読んでいたことからも明らかで、絵本を創る時も、まず目に映った映像をもとにイメージをふくらませていくこと、絵も文も自分で創ること、対象年齢は考えず、「人間」に対して書いていること、絵本に対象年齢を定めるのは営業戦略でしかないと思っていること、いつか壮大なスペースオペラを書きたいと思っていること等の話があり、なによりも絵と文を用いた絵本という表現形態への強い信念と、それに支えられた絵本作家としての自負心とが聞く者に強いインパクトを与えた。

実際の制作過程については、川端氏の持参ダミーと完成した絵本とを比較しながら、作家自身から具体的な制作過程を聞けて、絵本作家志望の人たち(5~6名)には興味深かったと思う。間のとり方(活劇を絵本化しているものでは特に大切)、伏線の効用、判型の効果的な用い方、時間経過の表し方等々。また、絵本作家になるには、まず“売り込み”すること、コンクールへの応募などを忍耐強く、タフに続けること、積極的に出会いの場を求めるというこという助言があった。

流通の問題については、川端氏自身がとっている方法がより具体的に紹介された。講演会、サイン会、本の販売—この方式が書店の少ない地方では有効で、喜ばれること。地方の図書館は協力的で熱心なことなど、話は図書館の在り方にも広がっていった。(川西美沙)

### ● 第三分科会「流通の現場」報告

現在の書籍の流通の方法のままで、個々の人々にとって本当に適切な情報を手に入れることが出来るのか、という大変重要な問題が、この分科会では議論されました。

〈再販価格維持制度の問題〉 まず最初に「最近、絵本を扱う出版社や書店が相次ぎ休業や閉鎖をしているのは、流通に問題があるのではないか」という発言がありました。これに関連して、フォーラム前日の新聞に再販価格維持制度(以下、再販制度)改定の記事が載ったこともあり、この制度などを含む現在の流通システムの問題点について意見が出され、さらに複数の方から、再販制度そのものが色々な弊害の要因になっているのでは、という指摘がありました。

しかし、再販制度の今後については、公正取引委員会でもまだ明確な方向が示されていないこと、および出版社などの専門知識を持つ方の参加がなかったことで、具体的な方向に話は進みませんでした。

〈書籍に触れる場〉 吉田新一氏によれば、ヨーロッパでは図書館がかなり充実しており、人々は図書館で書籍に親しむようです。蔵書の採用に関しては図書館員(図書館司書に相当)の考え方方が大きく影響し、その判断に従うということで、作家に対する印税に関し

てのシステムも日本と違い、貸し出し回数の多い本の作家には、印税に相当するものが確保されているそうです。それに対して日本では、ヨーロッパに比べ図書館の利用は少なく、個人が本を所有することが多いのですが、絵本の価格が高いため、購入した本を回し読みすることもあり、このことが本の売れ行きにも影響しているという意見も出ました。

〈読みたい本が手に入らない〉 書籍取次店は、大規模な書店やよく売れる店に重点的かつ頻繁に新刊本などを送るが、地方の書店や小規模な書店には、注文があつても規定の送品箱が一杯になるまで発送しないことがあるそうです。このため読者は読みたい本を何週間も待たなくてはならないし、一方頻繁に書籍を送り込まれる大規模書店などでは、店頭の棚に空きがないときには、梱包も解かずそのまま取次店に返送する場合もあるそうです。消費者の目に触れないまま廃版になる新しい本があることは残念なことです。

〈絵本をもっと普及させるために〉 流通を成り立たせるには、読者を育てることが大切で、長く続いている書店や出版社には地道な啓発活動をしているところがあるそうです。今後絵本の流通を活発にさせるには「(1) 宣伝を感じさせないセールスマネージャーが大切。(2) 子どもたちとのネットワーク作りが必要。(3) 作家と批評家のような両輪があるとよい。」という提案が吉田新一氏からありました。今回のフォーラムで、全く読者に触れることなく日の目を見ない絵本が数多くあることを知り、流通を活発にさせるためにも、これらの本の中から良質な絵本を発掘する必要性を痛感しました。(三好優子)



「絵本フォーラム '98」第三部各分科会からの報告風景  
右より、岩崎真理子氏・川西美沙氏・三好優子氏・生田美秋氏、司会：香曾我部秀幸氏

### ● 第四分科会「再発見の場」報告

1. 絵本という魅力的な世界を児童文学の一ジャンルという枠から解き放ち、さまざまなジャンルや多様な意見を受け入れ、意見の相違を認め合い、活発な論議が可能な開かれた世界にしていくこうという中川氏の主張が参加者の共感を得た。美術・デザイン・漫画・写真・映画……さまざまなジャンルからの絵本の世界への越境を歓迎し、積極的に意見を聞いていくこうという姿勢が、結果的に絵本の世界を多様で豊かな世界にすることになるとの共通理解が得られたと思う。

2. 次いで、絵本批評の立ち遅れ、本格的な絵本評論メディアの不在が指摘された。絵本評論家が少ない現在、研究者といえども古典の解説にとどまるごとなく絵本の新作に目を配り、評価できる作家・作品を紹介していくことが大切である。新作を評価することには判断を誤るというリスクを伴うが、それを恐れないで主張することが今こそ重要なのではないか。新聞・雑誌の絵本紹介欄は、本格的な評論をするには文字数があまりにも少ない。早く本格的な絵本

評論のメディアが誕生することを期待したい。

3. 中川氏の主張では、絵本の物語性の軽視につながらないか、自分は絵本の物語性・ストーリーにこだわっていきたいという意見が出された。中川氏は、絵本の物語性を軽視しているわけではなく、ストーリー絵本（創作絵本）の意義を十分認めた上で、「造形的な絵本」「感じる絵本」「ナンセンス絵本」などユニークな絵本、絵本表現の多様な可能性を追求していきたいとした。

4. 文庫活動をしている会員から、大人（自分）のものさしで子どもに見せる絵本を制限していいのかどうか、大人のフィルターを通して絵本を与えることで子どもの可能性の芽をつぶしていないかという不安を抱えているという報告があり、他の会員からは逆に、どんなものでも受け入れてしまう子どもたちには、一定の知識を持った大人（個人・図書館）が選書をして与えることこそ、ひどい絵本が氾濫している今大切であるという意見も出された。

5. 他にも、絵本とイラストレーションの関係、絵本の“絵”を読む能力の不足、今後の研究課題として絵巻研究の意義、学会として直接子どもの意見を聞く機会、子どもとの接点を持つ必要、絵本館（美術館・文学館）における原画展のあり方等、絵本界が抱えるさまざま課題が提出されたが、時間の制約もあり今回は十分な論議をするにはいたらなかった。今回提起されたテーマを今後の絵本フォーラムの中でさらに深めていければと考えている。（生田美秋）

企画委員会では、会員の方だけに限らず幅広く一般の方に参加していただけるようなイベントを今後も色々と計画中ですが、その中心に『絵本フォーラム』を置き、継続的に開催していく予定です。場所も東京に限定せず各地域持ち回りで展開することも考えています。地方の方々からの積極的な働きかけを期待しております。



KATSUMI KOMAGATA

◆  
続いて第三部【全体会】では再び一會場に集まって、分科会で論じられた諸問題が四氏より報告されました。

受容の分科会では、「読み聞かせ」と「読みあい」の違いに关心が集まり、村中氏の楽しいパフォーマンスが味わえたこと。創作の分科会では、創造の理念・表現論等はあまり深まりを見せず、絵本作家を目指す若い人たちの質問が、作品の売り込み方や編集者と親しくなる方法等、具体的・現実的な关心に集まったのは意外な展開であったこと。流通の分科会では著作物の再販価格維持制度の見直しの問題の影響の深刻さが浮かび上がったこと。再発見の分科会では、絵本を「子どものためのもの」から解放し、さまざまな分野から多様な切り口で論じることによって、絵本の世界はより豊かに広がるという認識が共通のものとなったが、また同時に、絵本に対する価値観の危うさと拡散が切実な問題として感じられていること、などなど。

以上のような興味深い報告を聞き、一つの分科会にしか参加できない今回のシステムに不満を持たれた方もずいぶんいらっしゃったようです。

悪天候のために参加者は予定数から大幅に減ったものの、会場の世田谷文学館の方々の献身的なご協力に助けられ、また窓の外の庭園に降り積もった雪の淨らかな輝きが会場に格別の風情を醸し出し、和やかな雰囲気の裡に、参加者は濃密な時間を楽しく共有することができ、フォーラムは無事閉会に至りました。

限られた時間に多くの要素を盛り込み過ぎたため、全てが舌足らずに終わることは否定できません。しかし今後の学会で深く検討されるべきいくつかの課題が、浮かび上がってきたことも確かに感じられました。とくに、絵本は従来の保育や児童文学等の狭い領域に収まるものでなく、さらなる可能性を秘めた幅広い表現媒体であり、その価値を探るための研究・評論の充実が早急に求められていることは、どの現場においても、共通の認識となったようです。

# information

## ●絵本関係展覧会・イベント

### ●世田谷文学館

1998.6.27 (土) ~ 8.9 (日)

#### 《林明子の絵本展》

子どもの表情、しぐさを的確にとらえた温かい画風で子どもたちやお母さん、保育士さんに大人気の林明子さんの絵本世界を、代表作『はじめてのおつかい』『きょうはなんのひ?』『おふろだいすき』などの原画約150点で紹介。作者へのインタビューを収録したビデオコーナー、作者の図書を閲覧できる読書コーナーも設けられている。

#### ・記念講演

6.27 (土) 14:00 ~ 15:30

征矢清(絵本作家・編集者)「林明子さんの絵本世界」

7.12 (日) 14:00 ~ 15:30

川端誠(絵本作家)「林明子さんの絵本を楽しく読みましょう」

いずれも先着150名まで、入場無料

1998.7.18 (土) ~ 8.9 (日)

#### 《夏休みこども文学館》

◆絵本・児童書コーナー：会期中文学サロン、ロビーに常設

#### ◆創作講座「絵本をつくろう'98」

会期：7.19 (日)、7.20 (月)、7.23 (木)、7.24 (金) 13:00 ~ 16:00

講師：町田万里子(筑波大学付属小学校教諭)

定員：20名(事前申込制・小学2年生～中学生対象)

#### ◆童謡コンサート「ジャズで聞く童謡の世界」

日時：未定(8.1、8.2、8.8、8.9のいずれか予定) 18:30 ~ 20:00

出演：松本英彦(T-Sax)、近英樹(Piano)、魚谷のぶまさ(Bass)、守新治(Drums)、松本佳子(Vocal)

定員：先着150名、ひととき保育あり

#### ◆人形劇

日時：7.26 (土) 14:00 ~ 15:00

演目：「いやだいやだのきかんばあひる」(原作：かこさとし、上演：エツコ・ワールド)

定員：先着150名

#### ◆映画会

日時：7.25 (土) 14:00 ~ 16:00

演目：「100人のこどもたちが列車を待っている」(1988、チリ、監督：ベアトリス・ゴンザレス)

定員：先着120名

#### ◆手あそびうたの会

日時：7.22 (水) 予定、15:00 ~ 16:00

出演：未定

定員：先着、対象年齢未定

#### ◆文学館探検隊

日時：7.29 (水) 予定、13:00 ~ 16:00

定員：30名(事前申込制)

#### ◆アニメ上映会

日時：8.4 (火) ~ 8.5 (水) 予定

演目：未定

定員：50名

会場：2F 講義室

詳細は次号までお待ちください。

[開館] 10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)

[休館日] 月曜日(祝日の場合は翌日)

[入館料] 観覧料一般300円・大高生200円・中小生100円・65歳以上と障害者150円

TEL 157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10

TEL 03-5374-9111

### ●ちひろ美術館

1998.4.23 (木) ~ 7.12 (月)

#### 《ちひろの描いたアンデルセン—夢と真実の世界—》

アンデルセン童話の中の人間の悲しみと真実に感動し、現実を見えながら美しい夢を持ち続けていたアンデルセンに強く共感しているちひろの作品を紹介。画家として駆け出しの頃の作品から、晩年の自由に発想を広げて描いたタブローまで、繰り返し描いたちひろのアンデルセの画風の変遷を追い、アンデルセン童話への思いの深さを浮き彫りにする。

#### 《ラショフ、マーヴィナ追悼展》

名作『てぶくろ』で親しまれているE.M.ラショフ(1906~1997)、国際アンデルセン賞に輝いたタチャーナ・マーヴィナ(1902~1996)、国際的評価が高いこの2人のロシアを代表する絵本画家の業績を偲び、追悼展示を開催。

[開館] 10:00 ~ 17:00 (金曜日は19:00まで)

[休館日] 月曜日(祝日開館、翌火曜日休館)

[入館料] 大人500円・中高生200円・小学生100円

TEL 177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

テレホンガイド：03-3995-0820



### ●軽井沢絵本の森美術館

開催中～6.21（日）

《アメリカ絵本の60年・コールデコット賞の絵本展》  
1938年にALA（アメリカ図書館協議会）により創設されたコールデコット賞。今展では、第1回から現代にいたるまでの受賞絵本と、受賞・次点賞画家の作品を紹介、コールデコット賞60年の歴史をたどる。また、19世紀後半に活躍したイギリスの絵本画家ランドルフ・コールデコットについても紹介。



1998.6.25（木）～10.4（日）

《グリム童話の絵本展—一口伝えから世界の絵本へ—》

ドイツで集められた口伝えの物語が世界へ広がっていった過程と、広まった国々でどのようなグリム絵本があるのかを見していく展示。

[開館] 9:30～17:00

[休館日] 火曜日（5/5は開館、5/6休館）

[入館料] 大人800円・中高生500円・小学生400円

〒399-0100 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢82-1

☎ 0267-48-3340

### ●キッズプラザ大阪

《コマガタワールド—創造的な絵本の世界—》

グラフィックデザイナー駒形克己氏が、自らの子供の誕生をきっかけにデザインしたユニークな絵本とワークショップの企画展。

・親子ワークショップ「家族の絵本」

日時：5.23（土）、5.24（日）14:00～18:00

場所：多目的室

対象：小学生以上のお子さんと親（定員40組）

参加費：1組2,000円（入館料別）

準備物：大きいと小さいをテーマにした写真（24枚どり1本分、詳しくは別途連絡）

申込締切：5.9（土）

応募方法：往復ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号とワーク・ショップ名・日時を記入

宛先…〒530-0025 大阪市北区扇町2-1-7

キッズプラザ大阪「コマガタワールド」係

問合せ先：キッズプラザ大阪

TEL:06-311-6601 FAX:06-311-6605

・自由入場プログラム 創作工房

①くるりと変化 開催中～5.10（日）

②いろいろ素材絵本 5.12（火）～5.24（日）

③かおのカード 5.26（火）～6.7（日）

④のびるカード 6.9（火）～6.21（日）

時間：10:00～16:00（受付は15:40まで）

対象：制限なし

参加費：無料

[開館] 9:30～17:00（第2・4土曜日、日曜日、休日は19:00まで）

[休館日] 月曜日（休日開館、翌日休館）

[入館料] 大人1200円・小中生600円・3才以上300円

〒530-0025 大阪市北区扇町2-1-7

☎ 06-311-6601

### ●大阪国際児童文学館

開催中～1998.6.29（日）

《生誕100年：吉田一穂展 戦前戦中、絵本に生きた詩人》

詩人として童話を書き、絵本の編集にもたずさわり、戦意高揚を掲げる作品が多い中で情感あふれる作品を残した吉田一穂を紹介。

[開館] 9:30～17:00

[休館日] 水曜日、月末日

[入館料] 無料

〒409-1501 山梨県北巨摩郡大泉村西井出字石堂8240-4579

☎ 06-876-8800 FAX情報 06-876-8686

児童文学なんでも相談コーナー 06-876-7479

### ●いわむらかずお絵本の丘美術館

1998.4.25（土）～7.12（日）

《開館記念展「14ひきの雑木林・春」》

1998.4.25にオープン。友の会会員も募集中。

[開館] 10:00～17:00（金曜日は19:00まで）

[休館日] 月曜日（休日開館、翌日休館）

[入館料] 大人900円・中高生700円・小学生500円・幼児300円



〒324-0611 栃木県那須郡馬頭町大字小砂3097

☎ 0287-92-5514

### ●フジタヴァンテミュージアム

1998.4.18（土）～5.13（火）

《'98ヴァンテ 世界の絵本展》

世界中の国々で親しまれている約4600冊、86カ国の絵本を自由に手に取って読める展覧会。

・特集コーナー「世界の絵本どうぶつえん」

動物をテーマにした絵本や原画を紹介。

・寄贈絵本コーナー

今年度寄贈された絵本を紹介。

・絵本情報コーナー

・手作り絵本コーナー

・カルチャリング＆イベント

「体で感じてみるワークショップ—地球の生命になってみる—」

日時：5.9（土）11:00～12:30

講師：竹の内淳

対象：小学生以上大人まで

定員：50名（電話予約で先着順）

参加費：1000円

・公演「自然（じねん）」

日時：5.9（土）14:00～15:30

出演：竹の内淳

定員：100名（電話予約で先着順）

参加費：1000円

[開館] 10:00～18:00

[休館日] 木曜日

[入館料] 無料

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15

☎03-3796-2486

●小田急美術館

開催中～1998.5.10（日）

《ムーミンと白夜の国の子どもたち—北欧の絵本三人展》

トーベ・ヤンソン、オッティリア・アーデルボリ、ドーレア夫妻という北欧を代表する絵本作家たちを紹介。

[開館] 10:00～17:00（入館は16:30まで）

[休館日] 会期中無休

[入館料] 一般800円・大高中生600円

〒160-8001 東京都新宿区西新宿1-1-3

☎03-3342-1111

●弥生美術館

開催中～1998.6.28（日）

《鴨下晁湖展～挿絵の中のニヒリストたち～》

昭和31年5月より『週間新潮』に連載された「眠狂四郎無頼控」の挿絵画家、鴨下晁湖。新聞・雑誌に多くの挿絵を描いた彼の初の回顧展。その他、大衆文学に登場したニヒリストたちの資料も同時紹介。

1998.7.2（木）～9.27（日）

《伊藤幾久蔵展～幾久蔵と怪人の系譜～》

大正末から昭和30年代にかけ、少年雑誌を中心に挿絵を描いて活躍した伊藤幾久蔵の初の展覧会。さらに、日本における怪人画の系譜にも触れる。

[開館] 10:00～17:00（入館は16:30まで）

[休館日] 月曜日（祝日開館、7.21休館）

[入館料] 一般700円・大高中生600円・中小生400円（隣接の竹久夢二美術館と共に通）、立原道造記念館も観賞できる三館共通券（1000円）もあり

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3

☎03-3812-0012

●竹久夢二美術館

開催中～1998.6.28（日）

《竹久夢二 恋愛模様展—画家とモデル夢二式美人の誕生—》

“恋多き画家”として知られる夢二と、彼の人生を華やかに彩った幾

多の女性たち。本展では、〈夢二式美人〉の誕生に深く関わった3人の女性の存在にスポットを当て、一世を風靡した夢二芸術の成立過程を検証する。

1998.7.2（木）～9.27（日）

《竹久夢二 大正ハイカラ風俗展—花開く大衆文化～西洋の香りに包まれて》

夢二作品250点と当時の資料を通じて、古き良きロマンが漂う大正時代の風俗を振り返り、そのハイカラな世界を紹介。

[開館] 10:00～17:00（入館は16:30まで）

[休館日] 月曜日（祝日開館、7.21休館）

[入館料] 一般700円・大高中生600円・小中生400円（隣接の弥生美術館と共に通）、立原道造記念館も鑑賞できる三館共通券（1000円）もあり

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2

☎03-5689-0462

●ペイン美術館

開催中～1998.7.24（金）

《収蔵品展》

1998.7.25（土）～9.25（金）

《収蔵品展》

館収蔵品による展示、水彩画・ペン画・リトグラフなどによって約60点で構成。また、新収蔵になった作品群もあわせて展示。

[開館] 9:00～17:00

[休館日] 会期中無休

[入館料] 大人900円・小中学生500円

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢217 軽井沢タリアセン内

☎0267-46-6161

●絵本の樹美術館

1998.3.14（土）～5.31（日）

《カナダの絵本と子ども文化展》

《子どものための布の絵本展—野口光世の世界》

1998.6.6（土）～9.6（日）

《杉山亮おもちゃ展—なぞなぞ工房の遊びの世界》

《荒井良二絵本原画展》『うそつきのつき』全点

1998.9.12（土）～11.23（月）

《太田大八絵本原画展》『絵本西遊記』全点

《なかえよしお+上野紀子「絵本への試み展》

[開館] 10:00～17:00

[休館日] 水・木曜日（祭日・3月・8月無休）

[入館料] 大人600円・3才～中学生300円

〒409-1501 山梨県北巨摩郡大泉村西井出字石堂8240-4579

☎0551-38-0918

●竹久夢二伊香保記念館

・夢二記念館本館「大正ロマン夢の館」

1998.5.1（金）～7.31（金）

《夢二の絵本の世界》

夢二の肉筆や著書・絵本の中から、絵とともに、子どもの気持ちを

歌った詩や子どものための物語を集め、夢二の子どもに対する思いと夢二の子どもの世界の魅力を紹介。

1998.2.1(日)～4.20(月)

#### 《初期の水彩画と遺品展》

長田幹雄コレクションの中から、夢二の初期の水彩画や手製のスクラップ、アルバムなどの遺品を展示。

#### 《常設展示》

「群馬と夢二」群馬県と夢二との関係資料の展示

「浦本政三郎博士と夢二の部屋」浦本博士のコレクションを展示

「長田幹雄記念室」夢二研究の第一人者長田幹雄氏から寄贈された夢二研究資料と夢二作品を展示

・夢二記念館新館「夢二黒船館」

開催中～1998.11.20(金)

#### 《夢二の絵はがき展》

月刊ユメジエハガキシリーズとの原画、夢二が書き送った肉筆絵はがき(初公開)を展示。

[開館] 8:00～18:00 年中無休

[入館料] 大人1500円・小中生1200円(本館・新館共通券 音のテーマ館券付)

〒377-0102 群馬県北群馬郡伊香保町544-119

☎ 0279-72-4788



#### ●イルフ童画館

・第1企画展示室

開催中～1998.7.29(水)

#### 《林義雄展》

1998.7.31(金)～12.2(水)

#### 《深澤省三展》

・武井武雄作品展示室

開催中～1998.9.30(水)

#### 《木にとまつた木のはなし》

黒柳徹子作の初めての絵本で、武井武雄に挿絵を依頼し承諾を得るが3週間後に武井氏が他界、その後武井氏の娘、三春さんが、文章に合った絵を氏の作品から選出するというかたちで完成した。

[開館] 10:00～19:00

[休館日] 木曜日

[入館料] 一般800円・中高生400円・小学生200円

〒394-0027 長野県岡谷市中央町2-2-1

☎ 0266-24-3319

#### ●高浜市やきものの里 かわら美術館

開催中～1998.5.24(日)

#### 《絵本原画展—「こどものとも」にみるファンタジーワールド》

創刊以来40余年500号を数える月刊誌『こどものとも』(福音館書店)の中から、佐藤忠良、中谷千代子、堀内誠一、山本忠敬、佐々木マキ、織茂恭子、降矢なな、林明子、山脇百合子、五味太郎の10名の作家を取り上げ、代表作品の原画を紹介。

[開館] 9:00～17:00

[休館日] 月曜日(祝日開館、翌日休館)

[入館料] 高校生以上600円・小中生300円

〒444-1325 愛知県高浜市青木町9-6-18

☎ 0566-52-3366

#### ●宮城県美術館 開催中～1998.6.21(日)

#### ●兵庫県立近代美術館 1998.7.7(火)～8.2(日)

《絵本原画の世界—「こどものとも」の絵画表現 1956-1997》

「こどものとも」のために描かれた46タイトル、約370点の原画を通して、現代の美術の一領域としての表現の可能性を切り拓いてきた絵本原画の世界を紹介。

・宮城県美術館

[休館日] 月曜日(祝日開館、翌日休館)

[入館料] 一般800円・大高生400円・小中学生300円

〒980-0862 宮城県仙台市青葉区川内元支倉34-1

☎ 022-221-2111

・兵庫県立近代美術館

[休館日] 月曜日(祝日開館、翌日休館)

[入館料] 一般1000円・大高生700・小中生400円(兵庫県内の小・中学生はココロンカード持参で無料)

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

☎ 078-801-1591

#### ●斑尾高原絵本美術館

開催中～1998.7.27(月)

#### 《ディック・ブルーナ展》

[開館] 9:30～18:00(休前日は19:00まで)

[休館日] 火曜日(祝日開館)

[入館料] 900円(飲み物付・幼児無料)

〒389-2257 長野県飯山市斑尾高原 11492-224

☎ 0269-64-2807

#### ●黒姫童話館

開催中～6.28(日)

#### 《ミヒヤエル・エンデ特別展》

本国ドイツに匹敵するほど多くの愛読者を日本にもつといわれるエンデ氏と、日本との関わりを、様々な遺品や資料に即しながら紹介。

1998.7.2(木)～9.29(火)

#### 《熊谷元一の世界展》

童画家であり写真家である熊谷元一氏の童画・写真をとおして、大正～昭和の激動の時代にありながらも限りなくのびやかな子どもの世界を紹介。

・ホールの催し

5.17(日) くるま座小劇場

5.24(日) マザーグースの世界へ

5.31(日) 第7回「鳥に親しむ会」

6.7(日) ぱぴい人形劇場

6.13(土) くるま座小劇場

6.14(日) 紙芝居を楽しむ会

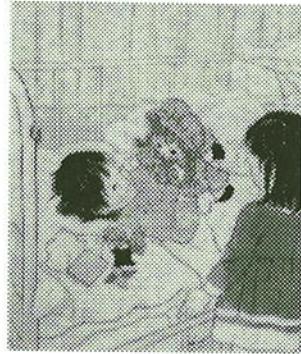
6.21(日) くるま座小劇場

6.28(日) パックマンパーティー

詳しくは黒姫童話館までお問い合わせください。

[開館] 9:00～17:00  
[休館日] 3月・5月・6月・9月・10月・11月の末日（日祝日の場合は翌日）  
[入館料] 一般 600円・3才以上～中学生 400円  
〒389-1303 長野県上水内郡信濃町黒姫高原 3807-30  
☎ 026-255-2250

●氷上町立植野記念美術館  
開催中～1998.5.31（日）  
《絵本原画展 林明子の世界》  
『かみひこうき』『はじめてのおつかい』など、林氏の代表作12冊  
を選び、原画に文を添えて紹介。  
[開館] 10:00～17:00（入館16:30まで）  
[休館日] 月曜日  
[入館料] 一般 500円・大高生 300円・中小生 200円（ココロンカード使用可）  
〒669-3603 兵庫県氷上郡氷上町西中 615-4  
☎ 0795-82-5945



## ○お知らせ

インターネット版 新着資料情報を発信しています！

### ○掲載内容

- ・古書（1950年までに発行された資料を対象としています。）  
〈おすすめ〉画像と資料解題を掲載した「おすすめ古書」紹介のページです。
- 〈図書〉当館に受け入れた最新1か月間の和古書の図書に関する情報を掲載。
- 〈逐刊〉当館に受け入れた最新1か月間の和古書の逐次刊行物に関する情報を掲載。
- ・新刊（1997年に発行された資料を対象としています。）  
〈図書〉当館に受け入れた最新1か月間の新刊の図書に関する情報を掲載。
- 〈逐刊〉当館に受け入れた最新1か月間の新刊の逐次刊行物に関する情報を掲載。

### ・紀要論文

1997年に発表された児童文学に関わる研究論文を掲載。

### ○データの更新

- ・毎月10日に更新しています。

### ○ホームページアドレス

<http://www.ksi.ne.jp/iiclo/>

なお、洋書も近日掲載の予定。乞うご期待！

財団法人 大阪国際児童文学館

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園 10-6

☎ 06-876-8800 ■ 06-876-8686

## 事務局からのお知らせ

### ●研究論文集の論文公募のお知らせ

運営委員会、出版・編集委員会では、学会機関誌の発行について継続して審議を進めておりますが、出版社などとの提携の可能性、機関誌の体裁などまだ決定するまでに至っておりません。この問題は、早期に解決しなければなりませんが、一方で年度内の論文発表の場も用意していかなければなりません。固定概念にとらわれない、絵本学会独自の特徴のある機関誌の発行を目指して今後も検討を重ねて参りますが、今年度、とりあえず論文発表の場として研究論文集を発行することになりました。

下記の要領でふるってご投稿ください。

### 研究論文集投稿要領

1. 投稿者の資格：絵本学会会員および準会員
2. 掲載の対象：絵本に関する研究論文、調査研究、研究ノートで、未発表のもの。
3. 掲載者の決定：受理した論文は、査読の上編集委員会が掲載の採否を決定する。
4. 刊行までの日程：(1)原稿提出受付期間は、1998年9月30日（必着）とする。(2)掲載の採否は、編集委員会の議を経て10月末日までに決定し通知する。(3)刊行は、1998年度内とする。

### 執筆要領

1. 日本語による横書きとする。
2. 原稿枚数は、1論文あたり400字詰め原稿用紙で20枚から40枚までとする。
3. 原則としてワープロ原稿とし、表紙に原稿の種類（研究論文、調査研究、研究ノート）、論文タイトル（和文、英文）、執筆者名（ローマ字を併記）、所属機関、専門分野を明記する。
4. 执筆にあたっては、「執筆要領」に基づいて作成する。「執筆要領」は、事務局に請求すること。
5. ワープロ原稿には、フロッピーディスクを必ず添付すること。データは、MS-DOSまたはマッキントッシュデータ。
6. 図版はモノクロを原則とする。カラー図版を希望する場合は、自己負担とする。
7. 論文掲載者には、掲載誌5部と抜き刷り30部を無料で呈する。

### 原稿提出先

原稿は絵本学会事務局宛に郵送すること（FAXによる送付は不可）。

### ●第1回絵本学会大会（1998年度）開催のご案内

前号でもお知らせいたしました通り、第1回絵本学会大会は、1998年6月6日（土）・7日（日）の2日間日本女子大学で開催いたします。大会プログラムは、以下の通り予定しております。参加申込方法などの詳細は別紙の案内をご覧ください。

### 1998年6月6日（土）

13:00 ワークショップ受付

13:30 ワークショップ開始

ワークショップ・1 こどもと絵本をつくろう

ワークショップ・2 サイバー絵本—コンピュータで  
絵本をつくろう

ワークショップ・3 とっておきの部屋

16:30 ワークショップ終了

16:30 総会受付  
17:00 絵本学会総会  
17:45 総会終了  
18:00 懇親会  
20:00 懇親会終了

#### 1998年6月7日(日)

9:00 第2日目参加受付  
9:30 研究発表開始  
12:00 研究発表終了  
<昼食>  
13:00 ラウンドテーブル(分科会)開始  
1・絵本と保育 I  
2・絵本作家研究 I  
3・絵本と地域活動 I  
4・絵本と造形表現 I  
5・絵本と表現・ことば I  
15:00 ラウンドテーブル(分科会)終了  
15:10 全体会(各ラウンドテーブル報告)、ディスカッション  
16:30 全体会終了  
16:35 閉会の辞

#### ●理事会・運営委員会

1月15日 運営委員会 於：世田谷文学館での予定だったが、悪天候のため2月11日に延期。  
2月11日 運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室  
議題

・1月15日に開催された「絵本フォーラム'98」についての報告と感想が出された。また、次回フォーラムは10月くらいをめどに企画する等の案が出された。  
・第1回絵本学会大会について  
大会のプログラムと内容が決定された。ワークショップの開催および分科会でのラウンドテーブルの設定と各テーブルのテーマが検討された。また、「とっておきの部屋」という談話室を設置することになった。  
・機関誌の発行について  
出版編集委員会より現況報告があり意見を交換、引き続き検討していくことになった。  
・『絵本学会ニュース』第3号の記事内容と発行日について  
・その他

3月14日 運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室  
議題

・機関誌の発行について  
経済的な問題から、当面は学会誌（学会員の研究論文集）の作成と出版社との協力体制に基づく出版物発行の二本立てで進めていくことになった。  
・『絵本学会ニュース』第3号について  
学会誌に関連して、『絵本学会ニュース』第3号に掲載する「研究論文集投稿要領」案が事務局より出され承認された。  
・第1回絵本学会大会について  
ワークショップおよびラウンドテーブルの詳細な内容について、大会校である日本女子大学から出された案をもとに意見を交換、引き続き検討していくことになった。

また、大会参加費が決定された。研究発表について、発表者および発表内容が確認され、発表は2部屋で同時進行で行うことになった。

- ・企画委員会より「絵本美術館バスツアー」企画案が出された。
- ・その他

4月11日 運営委員会 於：日本女子大学吉田研究室  
議題

・第1回絵本学会大会について  
ワークショップおよびラウンドテーブルの内容と進行が最終的に確定した。  
研究発表については、各部屋への発表者の振り分けが決定された。  
・『絵本学会ニュース』第3号の記事内容と発行日について  
・その他

#### ●専門委員会から

##### [出版・編集委員会]

ずっと機関誌の発行をめざして努力してきました。機関誌は、学者、研究家ばかりでなく絵本に興味をもっているすべての人を開かれるべきであり、また機関誌の入手も多くの人たちの手に渡るものでなければならないと考え、一般の書店でも購入可能なように出版社からの発行を目標としてまいりました。ところが去年から深刻化した不況から、引き受けてくれる出版社が見つからず、やむなく方針を変えざるを得なくなりました。機関誌は費用のかかる出版ですので、まずは論文のみを公募し、論文集として刊行します。それとは別に、念願である誰でも参加できる雑誌の可能性を、今後も探求していく所存です。論文については別項に、執筆要領があります。（澤田）

##### [研究委員会]

会員の、絵本の捉え方、絵本への関心、絵本学会への期待はさまざま……。そこから「最大公約数」を抽出して、その路線で絵本学会を運営するのはまずい運営で、多様なものの「共生」や「ハイブリッド」をめざすのがいいと思われます。研究に関しても……。  
絵本学会自体が研究資金まで持つということは、まだとても考えられませんから、会員がそれぞれの場でおこなっている研究活動やその成果の情報を会員から得て、それを広く他の会員に流す、ということが、まず、絵本学会として可能かつ有意義な活動となるでしょう。  
この情報入手は郵便や電子メディアでなされ、これについては問題はありませんが、得られた情報の広報のメディアをどうするか……。  
印刷物（機関誌、ニュースレター、等）が、全会員に届く媒体ですが、情報が時間的に遅れると、カラーのヴィジュアル情報は提供しにくい（……それにはかなりのコストがかかる）、などのデメリットもあります。後者の点では、電子メディア（ホームページや電子メールでの配信サービス）がすぐれているが、このメディアがどのくらいの会員にとって日常的なメディアになっているか……。  
すでに多くの情報が絵本学会ホームページ上で提供されていますが、とくに「研究」という問題意識での試作ページとして、「研究委員会のページ」を始めてみました。情報の交換から、次は、研究活動の連携へ……。それに連動して、シンポジウムや刊行物での特集……。  
「絵本研究にとって、絵本学会があつてよかった」という状態を少しずつ……、と考えています。

アイデア、ご意見などを、ひきつづき、委員長（増成隆士〒305-0005 つくば市天久保4-7-12/E-mail: masunari@mailhost.net）宛にお寄せいただければさいわいです。

[広報委員会]

総合的な機関誌が発刊されるまでの間、『絵本学会ニュース』の記事を充実させていくことになりました。当初は、報告や連絡事項を中心に年2回の発行を予定しておりましたが、今後は、投稿記事や依頼記事なども掲載していくと思っております。

会員の皆さまからの積極的な投稿をお待ちしております。また、掲載を希望する記事など内容についても是非ご意見をお寄せください。『絵本学会ニュース』は、事務局で編集制作しておりますが、何分人手が足りません。武蔵野美術大学まで時々来ることができる方で、編集やマッキントッシュによるデザインに関心のある方、お手伝いいただければ大変助かります。是非ご一報ください。(今井)

●前号の訂正とお詫び

『絵本学会 NEWS』No.2の「会員の声」欄に記述の間違いがございましたので、以下の通り訂正いたします。

P.3 左段下から2行目「木菜井悦子さん」→「木葉井悦子さん」

P.4 左段2行目「長野とぎ子」→「長野ヒデ子」

同 「サム・マグリット」→「サム・マクプラットニイ」

関係者の方々にはご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。